## 園 だより

令和7.1.21 No.1 かきの木幼稚園 園 長 川井 直子



## えんちょうのふでばこ

貧しい時代でしたが野火止用水は、

水が澄み、

雑木林は四季の野の花が咲き美しか

つも確認できる所です。

児期の教育は

「古さ」も

「新しさ」もない。

に囲まれ、

誰にも邪魔されず好きな遊びに興じる時代が本人の「核」となると思う。

本幼稚園の子ども達にも心の中に

「ふる里」

が なあり、

心許せる友達がい

親や家族

飾りがついたデコレーションケーキでした。 立者の代理として創立六十周年記念事業を行う気持ちです。 の五月五日に、 道に至るまで一 本園は令和七年二月二十五日をもって創立六十周年となりました。 私が幼い頃、 私と長男 志木駅南口は開設されていません。新座市 面の農村地帯でした。

創立六十周年をむかえて

れた。 時代ではありましたが、先のようなささやかな楽しみを子どもに与えてもらいました。 れられてしまったのかと二人で歩いて帰ろうとするのを心配して母方の腰の曲がった祖 越デパートの食堂で食事とデザート 昔ながらの家で父と母は、家長に従う身でありました。両親には、 農繁期には母の実家に長女の私と長男の弟は一週間近く預けられてしまい、 方、 ちなみに、その頃の生クリームは本物を使っていました。 たまの楽しみに自分のへそくりのお小遣いを持ち、 (母は、あんみつ、私はパフェ類) 金銭的に不自 両親に忘 出由な

母が付き添って帰って来てしまった思い出もあります。「仕事場」は畑なので、

子ども自

祖母との留守番も何の不安も覚えませんでした。

うれしくて黄色い花を手折って手に抱えきれないほど大きな花束を作りました。 カウンターでいただくお鮨と「クリスマスの日」のバタークリームの大きなバラの (弟) を自転車の前後に乗せて、志木市と富士見市の中間にあ 高度成長時代前の子どもにとって「晴 鮮明に覚えているのは忙しい父が、 田んぼの中の湧き水の沼のほとりで、 (旧大和田町) 私を連れ、 未だに私自身は をご馳走してく は、 れ 池袋の三 旧川  $\mathcal{O}$ 創

る水田地帯をサイクリングしてくれました。



かきの木幼稚園創立60周年記念品として、 「モニュメントクロック」を贈呈していただきました。

もも組 ベランダの壁面

記念品寄贈者 父母の会様 他顕微鏡2台 保護者樣 2名

設置場所